

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072200276		
法人名	社会福祉法人 上秋津福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム あきつ		
所在地	和歌山県田辺市上秋津2310-178		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和6年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少しずつ外出の機会も増え、日々の生活を一緒に楽しく過ごす事を職員の心得とし、生活の中で食事作り、掃除や洗濯等入居者が主体的に動ける場面を提供し、生きがいを持って生活し、入居者様、ご家族様にとって居心地の良い環境を作り、安心して生活が送れるように支援しています。又、職員自身が将来ここで過ごしたいと思えるグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山の谷間に開発された土地の高台にあり、閑静な住宅地である。敷地内に同法人の老健施設や通所リハビリテーションもあり、協力や交流も出来ている。新型コロナウイルス感染による生活制限も経験し、利用者及び職員の今後の取り組みに向けた課題を整理し、より良い環境作りに役立たせるために、管理者は信頼関係を構築し、自由なアイデアの提案も受け入れるよう努めている。新任職員の良い点も見出し、笑顔を決やさず明るい雰囲気作りがなされている。職員同士のコミュニケーションやバランスも保たれている。利用者はフェルトを手縫いしてカレンダーを作り、毎年幼稚園に届けたり、食事の準備や後片付け、玄関先の花への水やりなど、利用者自身で出来る活動をして過ごしている。職員は、施設の中で活用出来る研修に参加したいという意欲に満ち溢れている。次年度は、職業体験や専門学校の学生の実習をより多く受け入れていきたいと検討されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に目にすることができる場所に掲示し、日頃から意識し共有できるように朝の申し送り、毎月のカンファレンス時には必ず管理者、職員で話し合い実践につなげているか確認している。	地域密着型を意識し、『家庭的な環境の中でゆったりと楽しく』を念頭に置いた理念を玄関に掲げ、管理者及び職員全員が共有し、実践につなげている。新人の職員にも丁寧に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだまだ以前のように地域との交流は少ないが、今年度は外出の機会も増え、感染対策を行いながら町内を散歩したり、近くのガルテンや備長炭公園にコーヒーやアイスクリームを食べに行き地域の方と話したり、幼稚園児とは直接会う事は出来ていないが、園児から手紙や作品を頂いたりと交流は続ける事ができた。	徐々に近所を散歩したり、少人数に分けてドライブに出かけている。地域の食料品店への買い物や、幼稚園児との交流は自粛している。幼稚園から手紙や遠足の写真をもらったり、事業所からは、利用者と職員共同制作の日めくりカレンダーを届けるなど、関係が途絶えないよう交流を続けている。秋には、看護学生が運動会に参加する交流があった。	今後、幼稚園児との交流もできるよう、運営推進会議や幼稚園などと協議し、実現できることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度から看護学生の実習を受け入れ、またまは地域の民生委員さんに認知症の事を知って頂けるように話す機会を作っていければと運営推進会議で話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は文書開催ではなく、運営推進会議を行う事ができ、会議では委員の皆様から地域の情報を聞く事ができたり、皆さんからホームの活動についても理解して頂き色々な意見を頂く事ができ、そこでの意見をサービスの向上に活かす事ができた。	今年度、対面での運営推進会議が開催できている。毎回ではないが包括支援センター職員や地域の中学校、幼稚園、民生委員も参加し、事業所の取り組み状況の報告と意見交換ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当の方に運営推進会議参加して頂き、会議でも色々な情報や意見を頂き活動についても理解して下さり協力をして頂き分からない事があればその都度相談させて頂いている。	市町村の担当窓口まで出向き、事業所の取り組み状況を報告している。介護保険や研修案内などその都度確認や相談をして、協力関係を築けるように取り組んでいる	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が入居者様の人権を守る事ができるよう、身体拘束に関する研修に参加し身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。外に出て行くことされる方には玄関の施錠をする事がなく、職員が付き添い外に出かけたり自由な暮らしをして頂けるように努めています。	身体拘束となる行為については、管理者や職員全員が共通認識をもって取り組んでいる。特に、スピーチロックとなる言葉使いについて、毎月の会議や毎日の申し送りで注意している。日中は施錠せず、外に出かけたい利用者には、付き添って気分転換を図れるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、全職員が虐待に関する理解を深め、会議等でも話す機会を作り事業所内での虐待を見過ごさないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が、日常生活自立支援事業、成年後見制度を学び、必要性があればそれを活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様ご家族様に説明し疑問点はないか十分時間をとり、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望が出やすい雰囲気を作る為、ご家族様の訪問時に必ず声を掛け、そこで得られた意見は職員で話し合いサービスに反映させていけるように努めています。	意見箱は設置せず、家族が面会に来られたときに近況を報告し、意見をもらうようにしている。職員は、話しやすい雰囲気となるよう、笑顔を心掛けている。遠方の家族とは、ラインで実施状況を報告し、意見をもらい、事業の運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個々に意見を聞く機会を作り、又、朝の申し送り時には必ず職員の意見を聞き提案等あればすぐに職員間で話し合うようにしている。毎月の会議では全職員の意見や提案を聞き運営に反映させるようにしている。	毎日の申し送りや、月1回の会議で意見交換している。管理者は個々に意見を聞いたり、新人職員の良いところを引き出し、働きやすい環境になるよう配慮するなど人材育成にも取り組んでいる。職員の休暇についても取得しやすいように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や能力を把握し、職員が前向きに働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人の研修に参加し又外部研修にも多くの職員が参加できるようにしている。研修で学んだ事を報告する機会を作り技術や知識を身につけていく事を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加したり、互いに相談しあう機会をつくり、サービスの質を向上させていくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入時期心身の状態や思い、不安に身を傾け安心して生活して頂けるように、ご本人、ご家族と相談し他の入居者様と交流が持つ馴染めるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の立場に立ち、ご家族様の話をしっかり聞き、受け止められる関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様の思い、状況などを理解し、困っている事や不安な事に対し、どのような支援を必要としているかを見極めサービスの場に馴染み、安心、納得しながら利用できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの思いの尊重、さりげない介助、礼儀を大切に、ゆったりと楽しく家族の一員として職員も一緒に過ごし、日々生活のなかで色々な事を入居者様から教わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の関りをより深め、入居者様の心身の状態や日頃の暮らしぶり等を詳しく伝え、意見や希望を出してもらいやすい雰囲気を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで本人を支えてくれ、また逆に本人が支えてきた人間関係について把握し、今までの馴染みの人との関係がと切れないように支援できるように努めている。	近隣地域からの入居者も多く、面会や外出時に会うこともあり、馴染みの関係性を保つことができている。今までの暮らしぶりなどを馴染みの人から聞く機会もあり、新たな発見がある。手紙のやりとりの支援や、親族の通夜、葬儀に向く際には、職員が付き添っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に話を聞いたり、皆で楽しく過ごせる時間や気の合う同士で過ごす場面作りを行っている。又、入居者様の心身の状態や気分、感情の変化に注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもこれまでの関係性を大切にし、必要があれば相談や支援を行うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には思いや暮らしの希望を聞いているが、思いや希望が変わってくる為、日々のかわりの中で言葉や表情からどのように暮らしたいか、何をしたいかを見つめ、職員間で共有し話し合い、希望や意向の把握に努めている。	日頃の会話や行動のパターンなどから、一人ひとりの希望に沿った対応を心掛けている。以前の暮らしによって様々であり、食事にかかる時間や、消灯時間などの違いに配慮した対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様からこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方や生活環境について情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活リズムを理解し、その方の心身の状態、発揮できる力を暮らしの中で発見し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に接する中で意識的にご本人が求めている事を引き出せるようにし、又、本人、ご家族様の思いを基に本人、家族、関係者と相談し介護計画に反映させるようにしている。	日々の暮らしぶりや希望を確認し、定期的に担当者会議を開催して、より良く生活していけるよう現状に即した介護計画書となるように作成している。介護計画書は家族が訪問した際に説明し、署名を受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の暮らしの様子や話された言葉、食事量、排泄等身体的な状況などを記録し、個人記録を基に介護計画を見直し評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様ご家族様のニーズに対応できるよう支援しています。通院支援等その方にあった柔軟な対応を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の情報を得て、又、地域資源を把握し、安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の希望で、内科は契約医に診て頂き、眼科、脳神経外科等は今まで診て頂いていた病院に受診し、適切な医療を受けられるように支援しています。	入居時に、事業所のかかりつけ医があることを説明し、了解を得て、月1回は内科医の往診を受けている。眼科は家族が付き添い、脳神経外科の受診については、職員が付き添い、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週に1回入居者様の体調管理に来てくれる他、日々の体調や状態の変化時の報告、相談はいつでもでき、24時間対応してもらえる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様等と相談し、早期退院ができるように医療機関と話し合い、協力体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に急変時や緊急時の対応の説明及び意向確認をし、本人にとってどうする事が一番良いのか早期から本人、ご家族様と話す機会を作りホームでできる事を十分に説明し、終末期には家族、医師、看護師、介護職員と話し合いながら支援に取り組んでいます。	入居時に、重度化した場合や看取りについて説明し、意向を確認している。法人内施設の協力体制も整っており、今年度は一人看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	職員全員が、応急処置や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し、併設施設の職員の協力を得られるようにしている。又、運営推進会議を通して地域の方の協力を得られるようお願いしている。	年2回消防訓練を実施している。消防署から出向いてもらい行う消火訓練と、自主避難訓練を実施している。夜間は、同法人内の老健職員の協力も得ながら速やかに避難できるよう訓練をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	利用者一人ひとりの生活習慣や行動パターンを把握し、人格尊重を意識している。トイレにはさりげなく寄り添っている。着替えが必要な場合は、言葉使いに注意し、プライドを傷つけないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと入居者様の動きや言葉を待ち、得意な事できる事を見つけ、それを活かしていく場面をつくり常に入居者様に決めて頂けるような言葉かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら、本人のペースを大切に見守りながら、その動きや状態に合わせて関り、支援するように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装など入居者様の好みで選んで頂き、又希望があれば定期的に美容師さんに来てもらい希望のヘアスタイルにしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者様の希望を聞き、買い物に出かけ季節の食材を選び、一人ひとりの力を活かし入居者様と職員と一緒に食事の準備、片づけを行っている。感染予防の為に職員は一緒に食事をしていないが、同じ食事を食べている。	利用者の好みを把握し、希望を聞いて献立を考えている。食事やおしぼりの準備など手伝ってもらっている。新型コロナウイルス感染の蔓延までは、職員は利用者と一緒に食事を摂っていたが、現在は離れた席で同じ内容の食事を摂っている。家族や近隣住民から季節の食材を届けてもらい、献立に盛り込んでいる。行事のときは要望に応え、ちらし寿司など手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材もできるだけ多くの物を取り入れ、バランスを考え定期的に法人の管理栄養士にメニューをみてもらいアドバイスを頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方にあった歯ブラシを使い、毎食後声掛けセッティングでできるだけ自己にて口腔ケアをして頂き、口腔ケア後必ず職員が口腔内のチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導により排泄の自立を支援しています。できるだけ快適に過ごして頂けるように布のパンツに変更できるように支援に努めています。	排泄パターンを把握し、夜間もポータブルトイレ使用者はおらずトイレでの排泄の支援をしている。排便は緩下剤を使用し、排便の有無を記録している。紙おむつに頼らず排泄が自立できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すような食材取り入れ、水分を多く飲用して頂けるように声掛けし、またトイレでの姿勢を整えるため足置き台を使用し腹圧がかかりやすいようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はゆっくり一人で入って頂けるように支援しています。又、入浴回数、順番、好みの湯温等、個々に沿った支援をしています。	隔日に入浴できるようにしている。利用者の希望によって変更し、3日に1回は入浴できるよう配慮している。湯温の調節をし、ボディソープや入浴剤など個々の希望に応じ、皮膚乾燥による不快感のないようケアをしている。また、入浴日以外にも足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、個別の状態や疲労に応じて休息をとるように声掛けを行っている。夜間も眠れない方に対しては、できる限り薬を飲まずに眠れるようにその原因を把握し、個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理、確実に服薬して頂けるように介助している。又、処方されている薬の目的や副作用、用法や容量について理解し、服薬の支援、症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食事の準備、後片付け、洗濯たたみ等本人の有する力が発揮でき、充実感や役割を持つように支援しています。又、レクリエーション等気分転換が図れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少しずつ外出する機会も増え、ドライブ、散歩等外出できるように支援している。又、行きたい場所などできる限り希望に添えるようにご家族様にも協力して頂いている。	家族の協力も得て、お墓参りや家の仏壇にお参りしたり、お花見やドライブなどに少人数に分けて出掛けるようにしている。近所を散歩する際は、寄り添って気分転換を図れるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる入居者様はお小遣いは自己管理されており、買い物時には自分で直接支払えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友達に携帯電話で話されたり、電話を掛けたいと言われた時には事務所の電話を利用して頂き、話をされる時には職員は席を離れるよう配慮し、手紙を書き出されるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が居心地よく過ごして頂けるように、ソファの位置など生活しやすいように定期的に見直し、又明るさや室温を調節し過ごしやすい環境を作るようにしています。 ホールには季節を感じられる作品と一緒に作成し、行事の作品も展示している。	利用者の状態や行動パターンによって過ごしやすいようソファやテーブル、椅子などの配置を換え、カーテンや照明の調節もしている。感染予防にも気を配り、換気など予防策を講じている。 フロアの天井は高く天窓からの採光も調節して、明るく居心地の良いスペース作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様どうしの関係性などに配慮し、ゆっくり過ごせ、居心地のよい空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある私物を持って来て頂き、居心地のいい場所になるように本人、ご家族様の協力を得るようにしている。	居室の床は、木目調で温かみがあり、音の刺激も少ない材質となっている。一人ひとりが馴染みの家具を置き、家族などの写真を飾るなど、以前の暮らしぶりが残せるよう配慮され、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の変化などに考慮し、入居者様の現在の状況に応じて生活環境を整えるように努めています。		